

舌野一徳オンラインゼミミライの学校プロジェクト

3月4日、舌野一徳オンラインゼミミライの学校プロジェクトを開催し、200名近くの方々にご参加いただきました。「舌野一徳オンラインゼミ」は、公立教員時代に入学以来、私にとって大事な学びの場です。今回は、コクレオの森と舌野オンラインゼミという、私にとって大事な場所の仲間たちが一堂に会する、本当に幸せな機会でした。会が進む中、「民主的な在り方」ということが主題になっていきました。「民主的な学校・社会を創りたい」という

ことは、今多くの方がその難しさや大切さを感じているのだと思います。「みんなの力が元氣玉のように集まって創る学校、こんな学校が広がっていくんだと、日本中に希望を与えてくれるのではないかな。」という舌野さんの言葉には強く背中を押されました。私は日本の学校教育全体が、よい方向に変わっていくことを願っていますが、そのためには、社会全体の教育観・学校観の変化、そして多くの人に関心を寄せてもらうことが欠かせないのでは、と感じて



います。こどもの森が私立学校法人になることや、その資金集めの過程そのものを通して、世の教育観に、小さくても少しずつ変化をもたらせるといふなあと感じています。そのために、私はこれからもこどもの森の中で、スタッフや子どもたちと一緒に小さなことからコツコツと、試行錯誤を繰り返していきたいと思っています。(塚本有多香)

ミライの学校プロジェクト 進捗状況とご報告

3月末現在、100名の方からマンスリー寄付で応援いただくとともに、単発のご寄付やイベントチケットでのご寄付を合わせると約270名の方から応援いただいています。お気持ちをお寄せいただき、本当にありがとうございます。学校法人化に向けての道のりには、いくつもの壁があり、簡単なものではありませんが、みなさんからお寄せいただいているお気持ちに勇気づけられながら、一步一步、進めていきたいと思っています。(藤田美保)

引き続きのご支援を
よろしく
お願いします



インフォメーション

NPO法人コクレオの森 2022年度 通常総会のお知らせ

任意団体「大阪に新しい学校を創る会」がNPO法人になったのが2003年6月です。それから19年たち、6月11日(土)に20回目の総会を開きます。今年もオンラインでの開催ですが、正会員の方にはご出席をお願いします。なお、総会議案書は後日メールでお知らせします。出席されない場合は、書面議決書または委任状の提出をお願いします。(辻正矩)

子育てカフェ こどもの森のハッピーアドバイス

「〜これで決まり!子どもが輝くコツ〜」オンライン開催

時間: 10:00~12:00 定員: 20名
参加費: 2000円/名 4回通し7200円/年間通し17600円

第1回 4/13(水) 「自己肯定感の土台」
第2回 5/11(水) 「どこまで甘えさせていいの?」
第3回 6/8(水) 「子どもの話を聞けていますか?」
第4回 7/13(水) 「子どもが決めていますか?」



里あそび〜3つの提案 2022 (川西市黒川公民館にて)

ゆったりとした里山じかに包まれて、まったり活動しています。詳細はHPにて。

- 親と子の土曜クラス「そら」 月2回・満3歳~就学前の親子対象
- 発見・つくるを楽しむ「森のアトリエ」 月1回土曜日・小学生の親子対象

NEW!! 水曜クラス「風」 月1回2回・小学生以上の子ども対象
本年度より、平日クラスを開催!
いつもと違う環境に身を置いてみる*ダブルスクールの提案をしています。

ともにつくるためのリーダーシッププログラム

自分たちの場所での対話教育を育んでいきたい人に向けて、新企画をスタートします!
定員: 15名 参加費: 初年度モニター価格/45000円 ※宿泊費、食費込み (セット割/39000円 Manabee割/39000円)

- ①4/29(金)-30(土): 合宿 (リアル)
- ②5-7月: ともつく宣言進捗報告 (オンライン)
※2週間に1回、金曜20時~21時
- ③7/30(土)13:00-15:00: ともつく卒業式 (リアル)
(懇親会 15:00~17:00)



自分で考え自分で決める〜みんなで創るミライの学び〜

*学び場コーディネーターManabeeプログラム*第7期*

Manabee 4つのエッセンス「自己肯定感」「自己決定」「対話」「ESD」について体系的に学ぶプログラムです。リアル/オンライン開催です。

- 参加費: 一般 20,000円 学生 10,000円 / 4講座のみ参加は3000円/1回 定員: 25名
- ①全4講座(14:00-17:00) 5/14(土)、6/18(土)、7/16(土)、8/6(土)
 - ②共有プログラム創り 9/3(土)14:00-17:00
 - ③報告会と交流会 12/17(土)17:00-20:00



ありがとうございました!



公益財団法人 JKA の「新型コロナウイルス感染症の拡大防止策 補助事業の助成金」を受けて、各クラスや多目的室、ホールなどに、サーモカメラ・空気清浄機・二酸化炭素センサー・非接触型体温計・ペダル式ゴミ箱を設置しました。

《編集後記》

年度末の福ただしさを理由にして、なかなか準備を進められなかったコクレオてらす7号...無事完成しました。今号も、色々な方に素敵な記事を書いていただいています。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました! (藤丸浩志)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
わたしたちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

第7号 春季

コクレオてらす



強い意志で流れに乗る

佐野 純

昨年度、First Peace(内なる平和) Circle というワークショップに参加しました。そこでは、何度も自然の中に身を置いて、自分の内面と向き合い、感じたことを仲間と共有していきました。言葉にすることが大事というよりは、まず自分の心と身体で感じるようなイメージで。最後に行った「夢を描くセラモニー」。そこで描く夢は、よくある「将来の夢」のような具体的なものではなく、「どのような意図を持って生きるか」というとても感覚的なものでした。

10年ほど前、新卒で就職した会社を辞めて、私は初めて「ルール」から外れました。その時からやっと「自分が本当に何をしたいのか」を問うことができるようになっていった気がします。そこから、真面目なこどもの森学園にも出会いました。そして、インターンとして関わった頃、偶然にも中学部を開設するという話が具体的になり、担当スタッフとして立ち上げから関わることができました。気づけば7年目になり、中学生も1学年だけの7名から定員いっぱい20名に。中学部を立ち上げ、運営してきた役割もひと

落…。そして、今年度からは校長という役職をいただきました。

こんなことは、過去の自分からは全く想像できないことでした。思い返せば目の前のことに流されながらここまで来ました。でも何となく流されるだけだったかという、そうではなく、自分がどんな流れを作るのか、どんな流れに出会うのかというのは、きっと自分の内面とつながっていて、ずっとそこを見つめ続けてきたように思います。そこにある自分軸をしっかり持ちながら過ごしていけば、自分にとっての自然な流れに乗ってはいけるはず。そしてひとりひとりが自分の内なる平和とつながれば、それは戦争がないという平和にもつながっていくはず。

どこかにゴールがあるというよりは、「よりよいもの」にずっと近づき続けていくことができるように。これからもご縁のある皆さんと共に、また新たな学校創りを続けながら、社会へのインパクトにつなげていくという意図を持って臨みます。

こどもの森

変化の1年〜これからのミライへ

2022年度がスタートしました！昨年度、低学年クラスはことば・かずの時間に「クエスト」という取り組みを始めました。担当スタッフが何度も話し合い、子どもたちの声も聞きながら、それぞれのペースや進捗に合わせた基礎学習の時間を考えています。高学年クラスは、修学旅行で淡路島へ行きました。人数が増えてくるとこれまでのようなこどもの森の修学旅行の進め方には限界があると感じながら、また新たな取り組みにチャレンジしていければと思っています。中学部は、台湾の全人実験学校の方々とオンラインでの交流を行いました。英語で自己紹介や質問を考えて臨んだ、同年代の人たちとの交流は刺激が多かった様子でした。海外への行き来が緩和し、実際に現地で交流できること



を願っています。この4月からこどもの森に入學してきてくれた新入生は、14名。これで、小学部が48名、中学部が19名の、総勢67名の人たちが通ってくれています。子どもの数とともにスタッフの人数も増えました。インターンとして、こどもの森を学びの場に選び、関わってくれる人たちもいます。人数が増え、クラスが違ったり、途中から入學してきたりすることで、「この人のこと、全然知らない。」など、これまではあまり聞くことのなかった言葉が聞こえてくることも多くなりました。

小さな学校だからこそ、ひとりひとりが自分と向き合い、周りの人に無関心にならず、対話を交わしていけるような環境を大切にする、そんな土台を育てていきたいと思っています。(藤丸浩志)

おとなの森

森のシンボルツリー「Manabeeプログラム」

Manabee プログラムはコクレオの森のシンボルツリー（庭のシンボルとなる木）の一つのように感じます。「すべての人は、生まれながらに“善く生きよう”とする資質を持っている。それを発達させるために学び続ける。(学び続ける存在)」というコクレオの森のガイドラインの「すべての人」が「学び続ける」を実践する場だからです。また、受講者からコクレオの森に深く関わる人が出てくるところもコクレオの森にとって象徴的なプログラムだと感じます。

Manabee プログラムの真骨頂である「共育プログラム」は、受講者がチームに分かれて創ったプログラムをこどもの森の子どもたちに対して実施するというものです。こどもの森の子どもたちは、素直に受け止め、率直に反応を返すので、大人(受講者)の予想を超える反応もあります。このことは、失敗ではなく、大人



が学びを深めるとも貴重なチャンスです。子どもたちにプログラムを実施してチャンスを与え、子どもたちから貴重なチャンスをもたらす、まさに、「共に育み合うプログラム」です。

今年度の Manabee プログラムのタイトルは【自分で考え自分で決める〜みんなで作るミライの学び〜】で、4回行われるレクチャーのサブタイトルは、1. 自己肯定感是对話の土台(自己肯定感) 2. 主体的に学び、創造的に生きる(自己決定) 3. 多数決って、民主的？(対話) 4. 小さな一歩から未来が変わる(ESD)です。レクチャーではコクレオの森で大切にしていることをワークしながら学び、その後、共育プログラム創りと実施に進みます。

今、民主主義の大切さを痛感します。民主主義の三本柱是对話・信頼・参画です。三本柱をさらに突き詰めると「自分もひと大切にする」ということではないかと思えます。ひとりひとりが民主的であるために、学び続けたいと思います。みなさんも一緒にしませんか？(矢熊紀子)

保護者より

「学び」の形

長男頼礼に連れて行かれるがまま、こどもの森に見学に来たのが4年前。体験入学を経て、彼の意志で学校に行くことを決めたのが3年前。入学に当たり、行われた親の面接では、私は「彼の意志なので学校のことはよく判りません」と言い放ち、結局ふわとしたまま中学部卒業を迎えました。

ただ、彼のWO(ワールドオリエンテーション)の発表を初めて聞いた時、彼の意志が目指すところをおぼろげながら感じたことを覚えています。学期ごとに様々なテーマだけが与えられて研究内容は自由。難解にも思える深掘りの極みのような学びの形は、彼が嫌々として取り組める方法だったと思います。また、そこに大きな成長を感じたのは頼礼だけではなく、皆さん全ての発表に「学び」があると感じました。

妻と通った発表会は、息子の発表...ではなく、単純に私自身の「学び」のためだったと思います。最後の年には、おとなの会にも関わらせていただき、いろんな成長を感じながら、自らの刺激となった3年間でした。皆さんのこれからの心豊かな日々でありますよう、お祈り申し上げます。(小松裕隆)



トピック!

にわとりを飼おう！子どもたちの話し合いと決断

昨年の2月ぐらいのこと。全校集会で、中学生の人から「にわとりを飼いたい！」という提案がありました。話し合いの末、飼うことになり、2羽の雌のにわとりがやってきました。「ごま」「しお」と名付けられ、子どもたちの人気者になった矢先、何ものかに襲われて亡くなってしまいました…。突然のデキゴトにとでもショックを受けた子どもたち。「かわいそうやから、もう飼いたくない」という声がある一方で、「もう一回チャレンジしたい」という声もあり、飼いたい人だけで実行委員会を作り直すことになりました。

小屋を修繕し、養鶏家の方のアドバイスも受け、飼うことに懸念がある人たちと粘り強く対話をし、再び2羽の雌がやってきました。「あんこ」と「きなこ」と名付けられました。「ごま」と「しお」が亡くなってから、約半年が経った日のことでした。

とことん話し合い、日々のお世話も引き受け、再び命とも向き合う子どもたちに、にわとりたちが確かな学びを与えてくれています。(藤田美保)



ミライの森

『社会を創る』感覚を磨く場所

私にとってのオンラインヴィレッジは、自分の中の「社会を創る」という感覚を磨くことができる場所です。

コクレオの森と出会う少し前の私は、社会の中でうまく立ち回れない自分に、とても強いコンプレックスを感じていました。そして生まれた負の感情は自分の外側へと向いていき...と、それはそれは暗い毎日を送っていました。(今ではおかげ様で毎日ハッピーに過ごしています!)しかし、コクレオの森と出会い、「社会は自分たちで創ることができるんだ...」ということに気づきました。そして、その感覚は、オンラインヴィレッジを通して、よりハッキリしたものになっている気がします。

コクレオオンラインヴィレッジには、色んな人が集まります。4つの森(こどもの森、おとなの森、こそだての森、ミライの森)にすでに参加されている「コクレオファン」の方だけでなく、「コクレオは知らないけど、ここ(コクレオオンラインヴィレッジ)でやっていることが気になった」「コクレオの森とやがら大事にしていること...確かに大事だと思っていた!」という方たちに出会えるのがオンラインヴィレッジです。

それぞれの場で様々な悩みや課題を抱えながらも、オンライン上で集まったメンバーが、コクレオの森で大事にしていることをエッセンスとして持ち帰り、またそれぞれの場で挑戦していく。全国各地から集まってくださる参加者の方たちとお話していると、私たちが大事にしていることが、じわじわと社会に広がっているような、少しずつミライを創ることができているような、そんな気持ちになってくるのです。

コクレオの森で出会う方たちは、本当にもれなく素敵な方ばかりです。こどもの森で過ごす時間もとても幸せです。この輪が社会の中で、私たちの見えないところでもどンドン広がっていくことを願って、これからもオンラインヴィレッジでの時間を楽しみたいと思います。(土居偉実)

こそだての森

チーム「だんでらいおん」始動!

去る3月8日、豊能町子育てひろば「だんでらいおん」がオープンしました。ひろばスタッフは全部で8名。全員が週1〜2回の勤務で、週5日間の開室日をまわっています。

最初にシフト表を見たとき、「おお…」と思ったのが本音でした。もう形が定まっている場ならともかく、オープニングで週1、2回って...「連携は大丈夫?」「利用者さんにとってスタッフがほぼ日替わりってどうなんだ?」そんな心配がよぎりました。しかし、実際に始まってみれば、それは取り越し苦労でした。オンラインや現場でのメモ書きを活用して、自然と連携をとる形ができていたのです。それぞれが気になったことや、自分ができることをして、手と頭を動かし、少しずつ場が整っていきました。共に場をつくるなかで、見えてきたひとりひとりの個性(ギフト)。工作に長けた人、読み聞かせや手遊びができる人、子育てでハッピーアドバイスの講座ができる人、事務的なことを引



き受けてくれる人、利用者さんへの声かけが自然で上手な人、こんなことやってみよう!というアイデアを出してくれる人...オンラインで共有される日報を読んで温かい気持ちになったり、勤務日に「わあ、こんなのできてる!」と感心したり。まだ実際に顔を合わせたことがないスタッフもいるなかで、このチームには安心と信頼があるなぁと日々感じています。できること、やりたいと思ったことは手をあげてやってみる。できないことは相談して決めたり、フォローを依頼する。これってとてもコクレオの森らしい関係性だと私は思います。

強みや弱み、感情や気持ちもオープンにして受け止め合い、肩肘はらず自分らしくいられるチーム。そんなチームでスタートした子育てひろば「だんでらいおん」が、子どもたち、ひろばを訪れる大人たちの、それぞれのギフトを認め合える場になるようにと願っています。(並河智子)

